

# 特別支援教育免許シリーズ

全12巻

【シリーズ監修】 花熊 曉（関西国際大学大学院教授） 苅田 知則（愛媛大学教授）  
笠井 新一郎（宇高耳鼻咽喉科医院言語聴覚士） 川住 隆一（元 東北福祉大学教授）  
宇高 二良（宇高耳鼻咽喉科医院院長）

## 特別支援学校教諭免許取得を目指す人のための初の体系的テキストシリーズ

- 2017年告示の教育要領・学習指導要領準拠。
- 特別支援教育に関する最新の情報を盛り込んだ構成。

第1欄

### 特別支援教育概論

花熊 曉・川住隆一・苅田知則 編著

特別支援教育の最新情報を平易に解説。インクルーシブ教育、関係法令と支援システム、各障害の理解と指導、合理的配慮と支援等を網羅。

B5判・240頁／定価3,190円（本体2,900円＋税10%）



第2欄

聴覚障害教育領域

### 聞こえの困難への対応

宇高二良・長嶋比奈美・加藤哲則 編著

医学的基礎知識、検査法、医学・心理学的介入から聞こえの困難さを理解する。ICFの視点からの障害理解、インクルーシブ教育についても言及。

B5判・160頁／定価2,530円（本体2,300円＋税10%）

知的障害教育領域

### 認知機能・知的機能の困難への対応

笠井新一郎・坂井 聡・苅田知則 編著

知的障害の医学的・心理学的基礎知識に基づく支援方法、ならびに、認知機能・知的機能に困難がある子どもたちへの特別支援教育、インクルーシブ教育、生涯発達支援や家庭支援について解説。

B5判・208頁／定価2,860円（本体2,600円＋税10%）



肢体不自由教育領域

### 運動機能の困難への対応

榎木暢子・笠井新一郎・花井丈夫 編著

基礎知識、医学・心理学的介入から運動機能の困難さを理解する。インクルーシブ教育と、リハビリテーション・ハビリテーション、医療的ケアおよびAACによる支援・指導についても言及。

B5判・208頁／定価2,860円（本体2,600円＋税10%）

病弱教育領域

### 健康面の困難への対応

中野広輔・榎木暢子・滝川国芳 編著

子どもの成長・発達と健康問題を理解した上で医学・心理学的基礎知識、治療・介入・検査を学び、病弱児への教育的アプローチの実践に要する支援を習得する。病弱児教育の諸問題についても言及。

B5判・192頁／定価2,750円（本体2,500円＋税10%）



第3欄

合理的配慮

### 支援機器を用いた合理的配慮概論

金森克浩・大杉成喜・苅田知則 編著

障害者権利条約・障害者差別解消法の主旨を理解し学校教育における合理的配慮・基礎的環境の整備を学ぶ。障害種別の困難さや教育的ニーズ等、一人ひとりに対応した支援機器の活用法を習得する。

B5判・208頁／定価2,860円（本体2,600円＋税10%）



～以下続刊～

第1欄

「気になる子」をみる・かかわる視点

第2欄

見えの困難への対応

第3欄

複数の困難がある子への対応  
生涯にわたる配慮・支援

行動上の問題への対応

ことば・学習上の問題への対応

\*裏面の注文票に必要事項をご記入のうえ、お取引書店を通じてご注文ください。



## ◎基本目次構成

シリーズ各巻は原則として以下の構成にしたがって展開します。

- ① 導入（課題の投げかけ）
- ② 生理・病理・心理
- ③ 教育課程、指導法に関する内容
- ④ 発達過程別の障害に関する内容
- ⑤ 養育者支援

## ◎側注で補足や解説

本文で解説し切れない内容や補足の必要な用語を欄外で解説し、初学者でも理解できるようにしています。すでに知識を深めている方は、本文のみを読み進めることでスムーズに学習できます。

## ◎充実した図表

図や表を豊富に掲載し、視覚的にも理解を助けます。

## 第2章

### 生理・病理・心理

#### 1 医学的基礎知識（生理・病理）

聴器・平衡器は末梢部と中枢部からなる（図2-1）。末梢部はいわゆる左右一対の「耳」にあたる部分で、外耳・中耳・内耳の3部分に大別される。外耳には耳介・外耳道、中耳には鼓膜・中耳腔（鼓室）・三つの耳小骨・二つの耳小骨筋・耳管・乳突洞・乳突峰がある。内耳は聴覚に関係する蝸牛と、平衡に関係する耳石器と半規管からなる。耳石器・半規管を含めて前庭と呼ぶことがある（耳石器のみをさすこともある）（表2-1）。

中枢部は内耳につながる内耳神経（第Ⅷ脳神経）、延髄中にある前庭・蝸牛神経核を含む聴覚伝導路、最終的に音を認知する大脳側頭葉からなっている。

中耳腔  
鼓膜の内側。

耳 聾  
中耳腔と鼻咽腔をつなぐ管。

乳突洞  
中耳腔の後方に広がる含気腔。

蝸 牛  
聴覚を伝える螺旋状のうね。形状によって聴能率●の、動物によって聞こえている音の範囲は異なる。

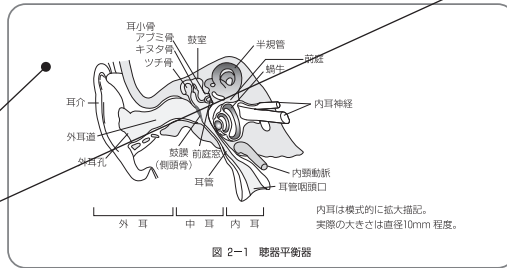


図 2-1 聴器平衡器

## ◎身近な話題をコラムで紹介

周辺領域の内容や身近な話題などをコラムとして掲載し、関心を持ちながら学習できるよう活用できます。

表 2-2 難聴をきたす主な疾患

1. 外耳疾患	外耳道閉鎖症 耳垢栓塞	3. 内耳疾患	変 性	老人性難聴
2. 中耳疾患	滲出性中耳炎 急性（化膿性）中耳炎 慢性中耳炎 乳突膿瘍 鼓膜穿孔 耳小骨障害		感 染	音響外傷
	外 傷	4. 聴神経疾患	中 毒	耳毒性薬物 メニエール病 突発性難聴 自己免疫疾患
			耳硬化症 中耳奇形（耳小骨奇形）	聴神経腫瘍
	3. 内耳疾患	遺伝性難聴 奇 形	5. 脳幹・大脳皮質疾患	腫 瘍
外 傷		脳神経骨折・内耳炎激症 外リンパ腫		血管障害 頭部外傷

きとりにくさに応じて言葉の理解も悪くなるが、場合によってはそのどちらかが特に強く障害されていることもある。

難聴は外耳から側頭葉の聴覚野までさまざまな部分の異常で起こる（表2-2）。しかし圧倒的に多いのは耳の異常であり、聴覚伝導路や側頭葉の障害による難聴は限られている。

難聴は障害部位によって、まず大きく伝音難聴（conductive hearing loss）と感音難聴（sensor-neural hearing loss）に分類される。この両者が混じって出現することもあり、これは混合難聴（mixed hearing loss）と呼ばれる。感音難聴はさらに内耳性難聴と後述後迷路性難聴に分けられ、後者は蝸牛神経性難聴と中枢性難聴に分けられる。

中枢性難聴には障害部位により脳幹性難聴、皮質性難聴がある（図2-14）。伝音難聴、感音難聴、混合難聴の鑑別は標準純音聴力検査の気導聴力閾値と骨導聴力閾値によりなされる。感音難聴をさらに鑑別するためには、他の種々の聴覚機能検査が必要である。

2 難聴の病因

#### コラム 「難聴」と「聴覚障害」の使い分け

「難聴」は主として聴覚が不十分であるという生理学的な機能不全を表すのに対して、「聴覚障害」は難聴によって生じるさまざまな不自由、不便、日常生活上の問題を表す用語である。しかし、現状ではそこまで厳密に区別することなく同義的に用いられている。

後迷路性難聴  
内耳は音が複雑なことから迷路とも呼ばれる。内耳よりも中枢という意味で後迷路性という。

標準純音聴力検査  
2章2-2、参照。

書 名	部 数	発行所
<b>特別支援教育概論</b> ISBN978-4-7679-2122-8 C3037 定価3,190円（本体2,900円＋税10%）	部	建帛社
<b>聞こえの困難への対応</b> ISBN978-4-7679-2124-2 C3037 定価2,530円（本体2,300円＋税10%）	部	
<b>認知機能・知的機能の困難への対応</b> ISBN978-4-7679-2125-9 C3037 定価2,860円（本体2,600円＋税10%）	部	
<b>運動機能の困難への対応</b> ISBN978-4-7679-2126-6 C3037 定価2,860円（本体2,600円＋税10%）	部	
<b>健康面の困難への対応</b> ISBN978-4-7679-2127-3 C3037 定価2,750円（本体2,500円＋税10%）	部	
<b>支援機器を用いた合理的配慮概論</b> ISBN978-4-7679-2131-0 C3037 定価2,860円（本体2,600円＋税10%）	部	

書店 帳 合	フリガナ	電 話
芳 名	〒□□□□□□	
ご 住 所		